

平成26年度 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程修了式が 開催されました。

平成27年3月20日10時から、当センター学院大研修室において、研修生10名が修了式を迎えました。埼玉県看護協会、実習関連施設等からの来賓の方々のご出席の下、修了式が執り行われました。



式典では、中島学院長から式辞として「正徳利用、厚生という書経の蔡伝にある言葉から、社会をよくするには衣食を十分にし、空腹や寒さに困らないようにし、民の生活を豊かにするという意味からも脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は人々の生活しやすさのために役割を果たすことが重要な時代である。ここで学んだ貴重な知識と経験は脳卒中患者の社会復帰のために皆さんが指導的役割を担うこととなります。」と述べられ、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の存在意義と今後の期待の言葉をいただきました。続いて、センターを代表して中村総長より、「現在脳卒中は死因の第4位であり、介護が必要になる要因の一つでもある。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の必要性の高まりと認定看護師としての自己責任について、また今後の活躍と動向、慢性疾患の管理や予防が課題となっている中で脳卒中による障害や要介護者に対する看護師の活躍が期待されている」と経験を生かした羽ばたきを期待するお祝いの言葉をいただきました。引き続き、埼玉県看護協会会長から祝辞をいただきました。研修生からの答礼では研修生一人一人の思い出や人柄が述べられ、研修期間中のつらい課題に向かう姿、助け合う場面が表現されました。経験の異なる看護師10名が同じ志をもち集った7ヶ月間の学びを現場の看護実践に生かすことを誓いました。修了証書を手にした研修生は充実感と達成感に満たされ、看護実践者としての新しい未来に胸をふくらませました。

